

デジタル時代における郵政事業の在り方に関する懇談会
データ活用WG（第2回）
議事要旨

- 1 日時：令和3年3月23日（火）17:00～18:45
- 2 場所：WEB 会議による開催
- 3 出席者：
 - ・ 構成員
谷川主査、高口構成員、小林構成員、中川構成員、中村構成員
 - ・ オブザーバー
日本郵政株式会社
日本郵便株式会社
 - ・ 総務省
佐々木郵政行政部長、菱沼企画課長、渋谷郵便課長、高田貯金保険課長、
徳光信書便事業課長、谷内検査監理室長、長坂国際企画室企画官
- 4 議事
 - (1) 事務局より、資料2-1、2-2に基づき説明が行われた。
 - (2) 日本郵政株式会社 大角氏より、資料2-3-1に基づき説明が行われた後、
日本郵便株式会社 橘氏より、資料2-3-2に基づき説明が行われた。
 - (3) 中川構成員より、資料2-4に基づき説明が行われた。
 - (4) 谷川主査より、資料2-5に基づき説明が行われた。
 - (5) 小林構成員より、資料2-6に基づき説明が行われた。
 - (6) 事務局より、資料2-7に基づき説明が行われた。
 - (7) 全体を通じて、意見交換が行われた。
- 5 構成員等からの主な意見
 - 物流分野におけるデータ活用においては、荷主が保有しているデータを、ロジスティクスを担う事業者がどのように活用できるのかという点が今後議論になると思われる。BtoB、BtoC、さらには CtoC のサービスにおいても、データ活用に取り組める余地を検討していくことが重要である。
 - データ活用にあたってはオプトイン、オプトアウトを使い分けることが重要であるが、その基準は企業のイメージやブランドによって変わることが想定されるため、日本郵政ならではの視点で慎重に判断することが重要である。
 - データ活用にあたっての切り口として、適法性と市場受容性の2つの視点がある。これらのバランスを取ることが重要であるため、今後この2つの視点から整理していくと理解しやすいのではないかと。

(以上)